

内原中学校区 施設分離型小中一貫教育に関する研究

内原中学校 妻里小学校
鯉淵小学校 内原小学校

めざす児童生徒像 人との関わりを通して信頼する心を大切にする児童生徒

研究主題 人との関わりを通して信頼する心を大切にする児童生徒の育成

1 主題設定の理由

内原中学校区では、これまで「人との関わりを通して信頼する心を大切にする児童生徒」をめざす児童生徒像として掲げ、4校で連携を進めてきた。このテーマは、「友達を信頼する気持ちが弱いためにトラブルになってしまうことが多い」という児童生徒の課題を解決するために、4校が連携して指導していこうという考えの下に設定されたものである。

この課題に対応するために、内原中学校区では平成27年度から毎年、全職員が参加して「ライフスキル」の研修を行ってきた。また、「内原中学区小中一貫教育『生活ガイド』『学習ガイド』」を作成し、指導の内容・目標を定めて取り組んできた。しかし、その指導の方法や効果については十分に共有されてはいなかった。そこで、昨年度から、「指導の内容を絞る、指導時期を決める、実践結果を共有する」といった方向性を定めて研究に当たった。全担任が実践経験を積み、その経験を基に「人との関わりを通して信頼する心を大切にする児童生徒」をいかにして育てていくかに迫るために、この主題を設定した。

2 研究のねらい

信頼する心を育む教育(ライフスキル、道徳等)、「生活ガイド」「学習ガイド」の活用、交流活動について、4校で指導法を研究・実践し、信頼する心を大切にする児童生徒を育成する。

【資料1】協働での授業研究



3 具体的な取組内容

(1) 信頼する心を育む教育研究部

① 道徳研究部

- 道徳コーナーの設置(学年・学級毎に工夫)
- 授業時数確保、全ての内容項目の授業実践
重点; Bの内容項目(1学期・・・人との関わり)
Cの内容項目(2学期・・・家族・命<高学年・中学校>)
- 授業実践記録の蓄積(学期毎に内原小へ送付⇒まとめ⇒研修会で共有)
- 授業で使用したノートやワークシートの蓄積⇒今後の授業や評価へ
- 各校における計画・要請訪問等での相互授業参観
- 協働して教材研究を行い、授業公開時は各校で同一の資料を使用した。【資料1】

② ライフスキル研究部

- 夏季研修会「ライオンズクエスト」の研修やテキストを生かした授業実践【資料2】
 - ・小学校 単元1(コミュニケーションスキル)「みんなはこの学校の仲間だよ」
・・・・・・1~2時間実施(1時間は必須)
 - 単元2(感情のコントロール)「なかまとともに大きくなろう」
・・・・・・1~2時間実施(1時間は必須)
 - 単元5(自己理解・他者理解)「あなたとわたしをたたえよう」
・・・・・・1~2時間実施(1時間は必須)

※単元1・2・5で、年間4～5時間を必ず実施する。
 ※内容は学年・学級の実態に応じて、テキストから選択する。

- ・中学校 1年生 単元2 (コミュニケーションスキル)・・・4時間
 <1学期;1回, 2学期;2回, 3学期;1回>
- 2年生 単元3 (感情のコントロール)・・・・・・4時間
 <2～3学期;4回 >
- 3年生 単元7 (人生の道のり:進路に向けて)・・・4時間
 <2学期;4回>

※内容は学年・学級の実態に応じて、テキストから選択する。

【資料2】ライオンズクエスト研修

【資料3】「生活ガイド」



学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
1	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方
2	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方
3	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方
4	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方
5	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方
6	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方	挨拶の仕方

3		あき 「おはようございます」	ひる 「こんにちは」	かえり 「さようなら」	
5	・げんきよくあいさつができる。	・はっきりとあいさつができる。	・気持ちよいあいさつができる。	・待と腰に並び、気持ちよくあいさつができる。	
6	・なまえをよべたら「はい」とお返さなごえでへんしをすることが出来る。	・名前をよべたら「はい」とはっきり返事をすることが出来る。	・名前を呼ばれたり、言われたりしたときに「はい」とはっきり返事をすることが出来る。	・待と腰に並び、気持ちよく返事をすることが出来る。	
7	・「です、ます」をつかうことができる。	・「です、ます」をはっきりとつかわることができる。	・「はい、いいえ」がつかいができる。	・待と腰に並び、気持ちよく言葉や返事をすることが出来る。	
8	・「ありがとう、ごめんね、さうなら」をいろいろな場面でつかいことができる。	・「ありがとう、ごめんね、さうなら」をいろいろな場面でつかい、相手に対してははっきりとつかわることができる。	・「ありがとう、ごめんね、さうなら」をいろいろな場面でつかい、相手に対してははっきりとつかわることができる。	・相手の気持ちや顔に合った言葉や返事をすることが出来る。	

(2) 生活ガイド活用研究部

① 作成のねらい

平成26年に、【資料3】を作成し、内原中学校区(鯉淵小・妻里小・内原小・内原中)内の全児童・生徒へ配付していた。厚紙に印刷されたものを配付し、生活の約束を統一して指導する体制を整えた。こうすることで、各小学校間・小中学校間において同じ視点で指導できるため、中1ギャップを防止する効果があると考え実施した。

② 本年度の取組

「生活ガイド」作成以来、生徒指導主事を中心に改善を行ってきた。しかし、活用の仕方については各学校に任されることが多く、『統一した指導』を行うところまでは至っていなかった。

一昨年度は各学校統一した指導を強化するため、「生活ガイド」の内容の見直しと、各学期の重点項目を決定した。昨年度からは【資料4】にあるように、看護日誌の目標に各月の重点目標を記入し、その視点の下児童・生徒の看護を行い、日ごろの指導に活用した。こうすることで内原中学校区の全児童・生徒が同じ時期に同じ指導の重点の下生活すると共に、内原中学校区全職員が共通理解の下、指導に当たることができるようになった。

【資料4】中学校の看護日誌

看護状況	<p>1. 今月の重点(けじめのある生活、ていねいな言葉づかいを心がけ実践)</p> <p>あいさつ運動が行われ、また、1人で各員の生徒たちから明るい声が聞かれた。あいさつを返す生徒も大きな声で返すよう声をかけていきたい。</p> <p>2. 看護状況</p> <p>上着を脱いでシャツで生活している男子の中には、ネクタイを付けて生活している生徒がいるので指導している。みんなで声をかけ、服装を整えて生活できるように</p>
------	--

(3) 学習ガイド活用研究部

① 作成のねらいとこれまでの歩み

「学習ガイド」【資料5】の主な内容は、①学習準備、②授業の挨拶、③聞き方・話し方・書き方、④家庭学習についてである。しかし、内容の部分では指導されてはいるが「ガイド」自体が活用されてはいない現状があげられたため、昨年度から月毎に重点目標を設定し、学

級に掲示できるようなカードを「学習ガイド通信」【資料6】として作成した。1年間継続して取り組み、内容項目を1つずつ取り上げ掲示したことで、児童・生徒が常に目標を意識して生活することができたと考える。

② 本年度の取組

本年度は、「学習ガイド通信」の成果と課題を確認すると同時に児童生徒が自分自身を振り返ることができるように、「学習に関するアンケート」【資料7】として自己評価表を作成して実施した。児童生徒だけでなく、教師側の指導の参考になればと考える。

【資料5】学習ガイド

学年	いえの人としゃべりよくして 小1・2年	友だちから学んで 小3・4年	自分から進んで 小5・6年・中1年	自分の特色を生かして 中2・3年
学習	・いえの人といっしょにじかんわりをみる。かくしゅうのようをする。 ・しゃべりよくしていっしょにぶんがくする。 ・いっしょにぶんがくする。	・教科で習ったことをかみしり、単語帳を作る。 ・読書や調べ学習を始めたことについて話す。	・自分から進んで学習する。 ・自分の得意な分野で学習する。	・自分の得意な分野で学習する。 ・自分の得意な分野で学習する。
生活	・ついでにのびのびとしゃべり、休みをみかたにする。	・先生に学習の進捗を伝え、授業の進捗を確認し、授業を受ける。	・先生に学習の進捗を伝え、授業の進捗を確認し、授業を受ける。	・先生に学習の進捗を伝え、授業の進捗を確認し、授業を受ける。
健康	・じょうぶなまはるむくまで、せきにたくこと	・学習時間は適切に休み時間に行い、休憩する。 ・学習を確認して進捗し、進捗に待つ。	・学習時間は適切に休み時間に行い、休憩する。 ・学習を確認して進捗し、進捗に待つ。	・学習時間は適切に休み時間に行い、休憩する。 ・学習を確認して進捗し、進捗に待つ。
あいさつ	・しゃべりよくして「おはよう」「おはよう」「おはよう」「おはよう」など、あいさつをたくさんする。	・しゃべりよくして「おはよう」「おはよう」「おはよう」「おはよう」など、あいさつをたくさんする。	・「おはよう」「おはよう」「おはよう」「おはよう」など、あいさつをたくさんする。	・「おはよう」「おはよう」「おはよう」「おはよう」など、あいさつをたくさんする。

【資料6】学習ガイド通信



【資料7】学習に関するアンケート

◆これまでの学習のようすについてふりがえりましょう。..

よくできた とてもおてはまる	できた おてはまる	あまりできた あまりおてはまる	まったくできなかった まったくおてはまる
1 月のめあてに気づけてかくしゅうできた。..	😊😊😊😊	😊😊😊😊	😞😞😞😞
2 じょうぶなまはるむくまで、せきにつくことができた。..	😊😊😊😊	😊😊😊😊	😞😞😞😞

あてはまるところに、色をぬろう。..

【資料8】学習指示マーク



また、昨年度から検討してきた「学習指示マーク」【資料8】の活用を始めた。マークが習慣化された学級では、マークを見ながら学習形態を変えたり、集中して活動したりすることができている。学年の発達段階を考慮するなど、さらに児童生徒に分かりやすく教師が使いやすいものにマークを改良していきたい。

(4) 交流活動推進部

① 職員間の交流活動

内原中学校区4校の全職員が「信頼する心を育む教育研究部」「生活ガイド活用研究部」「学習ガイド活用研究部」「交流活動推進部」の4つの部会に分かれて活動した。公開授業に向けては、3校の小学校の職員で担当学年ごとに授業内容について話し合う時間を設けたことで、様々な内容の相談ができる交流の場となった。

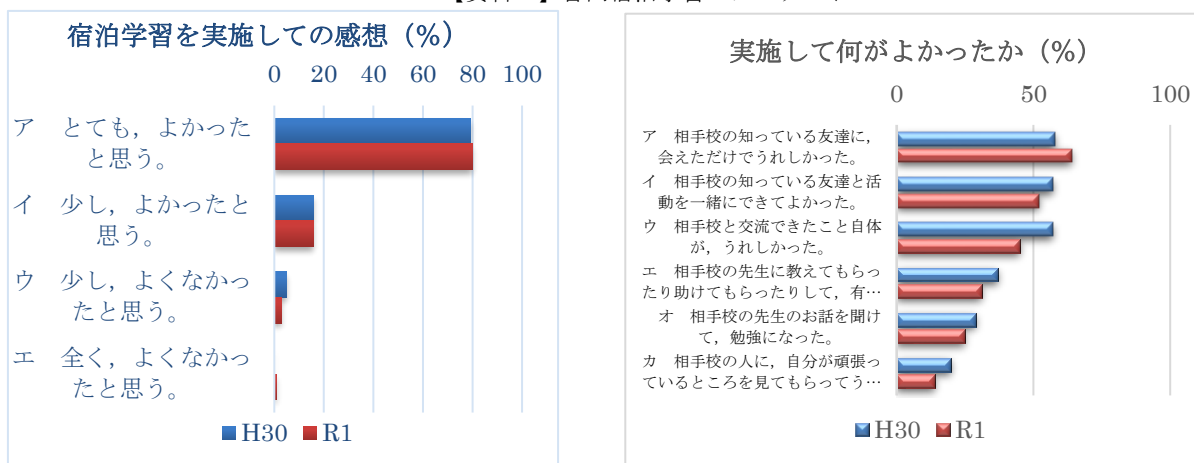
さらに、学力向上に向け、小学校4教科の教科主任と中学校の教科担当者による分析を行い、中学校教員からの専門的なアドバイスを受けながら、対策問題を作成するなど積極的な交流が図られた。

② 児童生徒の交流活動

- 小学校の「学びの広場」サポートプラン事業への中学生サポーター派遣
 - ・中学生のアドバイスで「わかった」「できた」という児童の反応が増え、小中学生のふれあいの場になった。
- 小中合同あいさつ運動
 - ・中学生が出身小学校に出向き、あいさつ運動を実施した。
- 中学校進学へ向けての、6年生の中学校訪問
 - ・新入生説明会「小学生の中学校生活に対するの質問に中学校の生徒会役員が答える形の交流会と部活動体験入部」を実施した。
- 内原中学校吹奏楽部と内原小学校金管バンド部の交流
 - ・小学生が中学生に質問して教えてもらうなど、積極的に関わり合う姿が見られた。
- 小学5年生の宿泊学習の合同実施
 - ・本年度は鯉淵小学校、妻里小学校、内原小学校の3校で宿泊学習の共同実施を行った。ウォークラリー、キャンプファイヤー、入所式、退所式、朝のつどい、カレーづくり等

- をよい雰囲気で行うことができ、児童同士が交流し、地域の仲間づくりができた。
 ・アンケートの結果からも、児童は良好な交流ができたことが分かる。

【資料9】合同宿泊学習のアンケート



4 成果

(1) 信頼する心を育む教育研究部

- 合同研修会を行って児童・生徒の実態を話し合い、道徳では「人との関わりに関すること」を重点にバランスよく実践を行うこと、ライフスキル学習では「感情のコントロール」「意思決定」等の力量を伸ばすことが重要であるとの共通理解を図った。その上で、実態に合わせた計画的な授業実践や、人権フォーラム等の集会活動を行うことができた。そのことにより、自分の感情ばかりを優先する場面が年度当初より減少し、相手の言動を少しずつ受容的に受け止められるようになってきた。

(2) 「生活ガイド」活用研究部

- 教師側が指導するときの根拠として、児童・生徒に示すことで指導しやすい。
- 学校の枠を超えてつながりをもつ保護者に対して、内原中学校区の全ての学校で同じ指導をしているという「指導のブレ」が少なく、信頼を得られている。
- 月毎の重点を決め、看護目標に定めて看護日誌に記述していることで、統一した指導が行き届くようになってきた。

(3) 「学習ガイド」活用研究部

- 月毎に重点目標を設定し、学級に掲示できるようなカードを「学習ガイド通信」として作成した。内容項目を1つ取り上げ掲示したことで、児童・生徒が常に目標を意識して生活することができた。また、内原小中学校区で統一の指導が行われ、指導の差が少なくなった。
- 「学習ガイド」についてのアンケート（評価）を実施して、実態把握をすることができた。
- 学習指示マーク（マグネット）を作成し、授業で活用することができた。児童の殆どが「役に立った」と感じている。（アンケートより）

(4) 交流活動推進部

- 「小中一貫教育企画会」を定期的実施することにより、教頭、教務主任同士での意思の疎通がスムーズになり、お互いの学校の状況を把握することができた。また、「内原中学校区小中一貫教育合同研修会・部員会」を定期的実施したことにより、今まで、近くても遠い存在だった中学校区の職員間を身近な存在にすることができ、小中・小小の連携を強めることができた。道徳と学級活動の授業づくりを同一学年の教員同士で協働で実施し、単学級の教員にとって、同学年の教員による集まりは、授業に関する話合いだけにとどまらず、様々な内容の相談ができる場となった。
- 交流活動推進部では、様々な交流活動を検討したが、すでに実施しているもので連携できるもの、必要感のあるもの、効果が期待できるもの等、将来的に持続していける内容に絞って実施した。